

調査名

孔番・深度

H27 B-3 (175 ~ 180)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破碎性状・詳細スケッチ等

標尺 175 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分						最大コア長	岩級区分	破碎度区分	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				ROD
05	175.35			25YR 6/1 褐灰	✓ b	✓ II	✓ B	β	2			B	175.15 ~ 175.22 m: 割れ目・変質・片状化の岩片は 硬質で割れ目には充填物は分布しない。
176	176.50				✓ b	✓ IV	✓ B	β	2	✓ 43	✓ 28	CH	175.55 ~ 176.50 m: CH 堅硬、上下位は比へp. 割れ目が多い。コア長10cm ~ 20cm (IV)が主体。中層割れ目は含む大半は密着度が高く ハニの打撃で分離しない。
05	176.78			25Y 7/1 灰緑	✓ b	✓ IV	✓ C	γ	2			CMY	175.45 ~ 175.71 m: 片状化の岩片は 代化可能程の高。岩片は堅硬で充填物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、部分的に呈露した。赤褐色部は 褐鉄鉱とある程度あり。
177			Gp							✓ 37	✓ 14		175.71 ~ 176.78 m: CM 割れ目・変質・短柱状 ~ 一部岩片は呈露。 175.59 ~ 175.62 m: 30°割れ目(α)・軟化(β)・砂状 粘土部はほとんどない。
05													176.78 ~ 179.15 m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含み中層割れ目密着度が高く、ハニの打撃で 分離しない。 上位は比へ 緑泥石化の選り、+2~5% 暗緑灰色斑状 厚さ0.5% 網状で分布。細粒の粗は大半が周囲に 密着、均一化している。
178				25YR 6/1 褐灰	✓ b	✓ II	✓ B	β	2	✓ 49	✓ 49	B	177.65 m: 350 μm 厚さ2~3%の石英片が分布。周囲に同化している。 177.83 ~ 178.27 m: 同様に5~10%の大型石英片。石英片の 長さが露出・点状分布。
05													178.31 ~ 178.39 m: 上端75°、下端70°割れ目に同様に 厚さ25% 10%に細粒化している。厚さ25%で 178.45 m: 緑泥石の付着に付着している。 178.45 m以下には中層割れ目が多い。密着度が高く、ハニ 打撃で分離しない。
179										✓ 47	✓ 33		179.15 ~ 180.00 m: CH 179.37 ~ 179.68 m: 一部は割れ目変質部で片状化の 岩片は堅硬で面は赤褐色・赤褐色で充填物も分布しない。 一部は赤褐色・緑泥石の付着に付着している。 中層割れ目の多くは比へ均一割れ目化している。
05	180.00				✓ b	✓ III	✓ B	β	2	✓ 43	✓ 15	CH	(21区)

余白

第四系コア観察カード

調査名		孔番	観察日				
		H27B-4					
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 山質土 炭化物 化石 木片			
0	0.22				碎石	10R 3/4 黒	φ5~50mmの角礫より成る。若種は砂質頁岩。
1					礫 混 じ り 砂 (盛土)	10R 7/8 明 黄 褐	φ2~20mm程度の礫(角礫~半円礫)を含む。 φ4~40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.22~1.00m間は比較的礫分含量高。 総じて、深くコアは指圧で容易に凹む。
3	3.10				砂 質 礫 (盛土)	10R 6/8 明 黄 褐	礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、Fコア の他、黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる。 φ10~100mmの角礫~半角礫が多い。 3.30~3.58mコンクリート片 3.00~4.00mの間基質は流失済み。
4							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
 境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		H27B-4					
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカー	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				〇 r 灰物 石 山質 礫 炭土 貝 化石 木片			
4.00							4.00~8.00 花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫も多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫へ亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多く、maxφ90mm。基質は色黒礫と粗砂。
5					砂質礫(盛土)	10YR 7/6 明黄褐色	5.73~6.00 基質はセメント流注。
6	6.30				砂礫入り砂盛土		6.30~7.00 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含む。その他少量のφ10mm以下の更なる角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締まっている。
7	7.60				砂質礫(盛土)	5YR 7/1 明黄褐色	7.00~7.45 Apの巨礫。頁岩の褶皺岩片を含む。
	7.45				砂礫入り砂(盛土)	10YR 7/6 明黄褐色	7.45~7.70 砂・た粗礫を含む砂(粗砂)
8	8.00				砂質礫(盛土)		7.70~8.00 花崗岩類の粗~中礫が主体。砕石、粗砂を含む。

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭----- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		H24B-4					
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				○ r 山灰物 質壤石 化石 木片 火炭 土貝 木片			
8.00	8						
		8.20					
9					砂	10YR 7/6	8.00~8.20 砂(粗砂)が主位となる。
					質	明	8.20~ 花崗岩類のφ10~50mmの角~角角礫が主位。下部は礫はApがやや目立ち、maxφ90mm。
					砂	黄	少量の黒灰色の頁岩礫が散在する。
10		木片			質	褐	10.15mに葉分化した長さ100mmの木片を含む。
					土		
11							11.03~11.02 含有礫は総じて小さく中礫以下。
12							

スケッチ: 礫はクサリ● 半クサリ◐ 硬質○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭—— 不明瞭---- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

第四系コア観察カード

調査名		孔番	H27B-4	観察日			
標尺	深度	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ	地質名	色調	堆積構造・特徴等
(m)	(m)		火山灰物 炭質土 化石 木片	○ r // □			
12					砂 厚 礫 (盛土)	10YR 7/6 明 黄 褐	<p>12.05~12.20 Gpの大礫</p> <p>12.04 木片混じり</p> <p>12.51~12.63 等角化した木片混じり</p> <p>13.45~13.75 木片混じり。13.77付近の色は合板 で割、明らかにこれ以上位は人工地盤である。</p>
13							
14					Gp		
15							
16							

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名

孔番・深度

H27B-4 (13.75 ~ 15.00)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質			
			盛土									
	13.75		↑									
14	14.00		GP	10YR 7/3 に 3.5 い 貴 橙	0	VI	E	E	2	0	0	D
	14.67											
15	15.00											CLV

盛土
↑

13.75 ~ 14.67 風化が著しく割れ目の多くは不鮮明とほろ

14.24 付近 割れ目と沈下マニフォの混雑が顕著

14.58 付近 頁岩破片が上部からの崩壊物と思われ

14.67 付近 中には若干軽微とあり割れ目のほとんどが認識できなくなるが、コア下部に重質で脆い、割れ目と沈下を伴った変質帯が広く見られるものがある。

調査名

孔番・深度

H27B-4 (15 ~ 20)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
15	15.75		GP	5YR 7/3 15.75 橙								15.00 ~ 15.49 低角度の割れ目が優勢。同化により 割れ目沿いの劣化。若干~シルト状の細粒物が認められる。 コア軟質である。 15.52 ~ 15.60 砂状コア。多くは上部からの崩壊物と思われる。 15.60 ~ 15.91 割れ目沿いの劣化著しく脆弱
	15.65			2.5YR 7/4 15.65 橙	C	V	D			CL		
	15.91			10YR 7/6 15.91 明黄橙								
	15.91			7.5Y 6/3 15.91 黄								
16	16.49		GP	10YR 8/6 16.49 黄橙	d	II	VE	8	3			15.91 ~ 16.36 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される。 15.91m 土盤 72° 緑灰色の粘土がやや湾曲したものが厚さ 2~3cmで認められる。 16.36 ~ 16.52 下盤 76° 灰白色の変質粘土が厚さ2.5cm程度 生じている。 16.36 ~ 16.52m 土位の破砕帯と同化の影響で劣化が著しい。 16.52 ~ 17.03 割れ目沿いの劣化は顕著で一部砂~砂状 となる。 17.03 ~ 17.86 低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見 られ。コア軟質で表面はザラつく。
	16.52											
	17.03											
	17.66											
17	17.66		GP	7.5YR 8/4 17.66 黄橙	C	V						17.86 ~ 18.00 コア表面のほうほうきは毎分軽微。 18.00 ~ 19.00 低角度の微細な割れ目が非常に多い。 18.70 ~ 20.00 斜尾石の同化し即座と相、互に比較的大型 の鉄鉱石が目立つ。
	17.86											
	18.00											
	18.52											
18	18.52		GP	9.5YR 8/4 18.52 黄橙	C	V						18.70 ~ 20.00 斜尾石の同化し即座と相、互に比較的大型 の鉄鉱石が目立つ。
	18.85											
	19.08											
	19.57											
19	19.57		GP	5YR 8/5 19.57 黄橙								19.57 ~ 19.76 砂状コアが主体となる。
	19.76											
	19.97											
	19.97											
20	19.97		GP									

調査名

孔番・深度

H27B-4 (20~25)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
20				10YR 8/3								20.02m 付着 かわれ2小規模の破砕帯(変質帯) 割れ目 20.02m 20.02m 小規模の破砕帯(変質帯) 幅 10~40mm 角度 30° 20.23~20.32 割れ目沿いに一部破砕状となる。 20.52~20.55m, 20.87~20.94 碎状となる。	
21	21.30			淡橙	C	D	8	3			CL	21.34~21.56 微細な割れ目に沿ってマンガン汚染の明瞭 21.52~22.47 割れ目に沿って、マンガンから赤色を呈する へ変化する	
22	21.85 22.13 22.31 22.38		GP		D	C		3	11	11	CM CL	21.85 21.88 21.97 22.02 22.07 22.12 22.17 22.22 22.27 22.32 22.37 22.42 22.47 22.52 22.57 22.62 22.67 22.72 22.77 22.82 22.87 22.92 22.97 23.02 23.07 23.12 23.17 23.22 23.27 23.32 23.37 23.42 23.47 23.52 23.57 23.62 23.67 23.72 23.77 23.82 23.87 23.92 23.97	22.47~22.55 破砕コア。一部は上部からの崩壊物 が含まれていると思われる。
23	23.38				C	D			0	7	CL	23.39~ コアは軟弱となり、表面はサラツク	
24	24.55								0	5		24.13~24.55 落したコアを再採取したと思われる。	
25			流灰						0	5	CL		

調査名

孔番・深度

H27B-4 (25 ~ 30)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
25	25.48		流 矢										
26	25.78		淡 橙	10YR 8/3		✓ C	5	3		✓ 18	✓ 18		
	26.19						✓ D						
	26.30						✓						
	26.48						✓ C						
	26.96						✓ C				✓ 28	✓ 14	
27	27.22		GP			✓ D							
	27.38						✓						
	27.85						✓ B						
	27.95												
	27.98												
28	28.24					✓							
	28.55						✓ C						
29	29.25					✓ N				✓ 15	✓ 15		
	29.48						✓						
	29.59						✓ D						
							✓						
30	30.00		橙 橙	5YR 7/6		✓							
							✓						
							✓						

25.74 ~ 26.19 コアは軟層と硬層のガラツキが大きい

26.00 ~ 26.40 割れ目が多いの岩化が明確、コアも同様の硬さである

26.96 ~ 27.22 岩層が軟質で脆弱である

27.22 前断性のある割れ目、変質も加わり上盤側は斜交帯で幅20mm程度、角度40°
N7E, 64W

27.95 ~ 28.00 前断性の割れ目が局所的に集中し脆弱である。

28.24 低角度で幅10mm程度の硬層となり、上下盤はツブツブ。

29.48 ~ 29.91 微細な割れ目が集まり、コアは脆弱となる。29.59 微細な割れ目だけマニガンゴに汚染される。29.60 ~ 29.70 前断性の割れ目が卓越する。

29.04 ~ 29.78 微小規模の破砕帯、上盤は角度40°白色土と下盤はマニガンゴ汚染顕著、上盤側は幅1cm、一部で変質を伴う。

調査名

孔番・深度

H27B-4 (30 ~ 35)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
30	30.03			5YR 7/4		✓						30.10 ~ 30.69 低角度の斜れ目が優勢である。 30.62 ~ 30.72 の間、不規則な形状の高角度の斜れ目が2条見え、マカガハ 3 ~ 5mm の厚さで折出ししている。
	30.29											
	31.00			10YR 8/2		✓			25	13		
	31.77											
32	31.93					✓						31.77 ~ 31.93 中角度の微細な斜れ目がほぼ平行に交差する。 31.87 ~ 31.91 剪断を受ける土盤 45° 暗緑灰色の粘土 ~ シラセ 3mm 伴う。下盤 40°。上下盤の間はやや緑色味を帯びた軟層である。 32.26 ~ 32.39 30 ~ 90° 程度の剪断性土の節理が平行して集中する。 32.68 ~ 32.72 30° 程度の節理がほぼ平行して集中する。緑色の薄い層が3条見られる。 33.00 ~ 33.62 30 ~ 50° の斜れ目が優勢。斜れ目と沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。
	32.34					✓			12	12		
	32.46					✓						
	32.67					✓						
33	32.80					✓						
	33.67			3YR 6/7		✓						
	34.00			10YR 8/2 灰台		✓			27	17		
	34.11			5YR 7/4		✓						
34	34.42			10YR 8/2		✓						34.30 ~ 34.42 斜れ目が集中し層 ~ 岩片状コアとなる。人為的？ 34.55 付近、局所的(連行)に低角度で破砕された細碎状となる。
	34.65					✓						
	34.79					✓						
	35.00					✓			22	12		

調査名

孔番・深度

H27B-4 (40~45)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化			
40	40.11			25Y7/4	✓						
	40.58			浅黄	✓						
	40.64			40.68	✓						
	40.93			5YR7/4	✓						
	41.20				✓				0	8	
	41.37				✓						
	41.47				✓						
	41.57				✓						
	41.80										
	41.91										
42	42.12		GP	3C	✓						
	42.35			い	✓						
	42.38			橙	✓						
	42.44				✓						
	42.54				✓						
43	43.05				✓						
	43.75				✓				0	4	
	43.54				✓						
	43.65				✓						
	43.80				✓						
44	43.21				✓						
	43.55				✓						
	43.58				✓						
45	43.58				✓						
	43.58				✓						

40.64~40.93 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。砂~粗砂となる所が多い。割れ目沿いに変質している。

40.93~41.00 割れ目沿い劣化、粗砂状となる。

41.00~41.20 低角度と高角度の割れ目が交叉し、層状となる。割れ目沿い劣化が見られるものが多い。

41.37~41.47 ほぼ平行の割れ目が集中。割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。

41.80~41.91 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。

42.12~42.25 割れ目沿いの劣化が顕著。一部同様の石少状となる。粘土付。脆性なし。

42.35 25°の割れ目に厚さ2~3mmのマンガン様皮

42.38~42.46 局所的に固結した砂に岩片が混入。褐色汚染も明瞭。

43.05 前断破砕をこの規模に受ける。角度32°幅10mm。土盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。

43.05~43.15 岩片状コア(人為的打込みを含む)

43.54~43.65 変質及び同化の劣化脆弱となる。43.65m 白色の変質脈。粘土付はしていないが軟質

43.80~43.91 低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり。表面はサラツク。

44.46 42°の割れ目沿いの褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と自鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在している。

調査名

孔番・深度

H27B-4 (50~55)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
50													50.07 70°の傾斜に割れ目がマニコン層を5cm折出
	50.39					N	C				CL		39 50.39 ~ 50.60 岩化のコアが軟質。底層は砂状と砂質等がある。軟質脆弱
	50.60					V	E				D		50.58 ~ 50.92 白色粗脈が不規則に入る。
	50.99					V				6	6		51.20 ~ 51.43 微細な割れ目が卓越した連片状となり割れ目には、乙深い排色脈(カリ長石)が見られる所が多い。
	51.48			51R 3/8 1=3.1 橙		V	C						51.66 ~ 51.92 微細な割れ目が非常に卓越(30~50)。コアは軟質である。
	51.86					V							51.90 45°の割れ目沿いに変質した白色結晶物脈厚さ4cm汚色注注明瞭。
	51.97									11	11		52.08 ~ 52.46 微細な割れ目が卓越。コアは所所的に破砕となる。上盤側の割れ目に厚さ4cmのマニコン存在する。
52	52.30		GP			C	V	C				CL	52.44 ~ 52.74 低角度の割れ目が卓越。割れ目には、乙汚色注注は軽微である。
	52.88									0	6		53.58 ~ 53.89 割れ目沿いの岩化が明瞭で、コアの一部は粗粒~砂状となる。
	53.54												53.84 の高角度の割れ目には、乙岩化の一部粗粒状となる。
	54.01									0	4		54.46 ~ 54.73 50~60°のほぼ平行な割れ目には、乙岩化の一部粗粒状となる。汚色注注も顕著。
	54.65			54.13 10YR 7/8 明黄橙		V	C						
	54.92			54.72 5YR 7/8 1=5.1 橙		V							
55										0	9		

調査名

孔番・深度

H27B-4 (55 ~ 60)

観察日

基盤岩コア観察カード

記事・破砕性状・詳細スケッチ等

標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				ROD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
55												54.96 ~ 55.55 低角度の割れ目が非常に発達する
	55.44				✓	✓				CL		55.46 ~ 56.00 50°の割れ目同様に厚さ3mm程度の割れ目が見られる。節理も発達している。
	55.70					✓						
56	56.00				✓	✓		0	5			
	56.41				✓	✓				CM		56.45 ~ 56.61 高角度と低角度の割れ目が交差し、亀甲状とD3。
												56.64 ~ 57.00 70°の割れ目は褐色粘土厚さ3mm存在。
					✓	✓				CL		56.88 ~ 56.98 約60°の角ばり平行して微細な割れ目が連続。一部破砕コアとD3。
57	57.09		GP					10	10			57.24 ~ 58.50 2の間多くの割れ目に褐色汚泥が見られる。
	57.41				✓	✓						
	57.54				✓	✓				CM		57.54 ~ 57.74 割れ目沿いに岩化。軟質脆弱。
	57.74				✓	✓						
	57.91				✓	✓		0	6	CL		
58	58.06				✓	✓						58.06 ~ 58.71 砂状の塊状物が見られる割れ目が多い。劣層は硬い。
					✓	✓				CM		
	58.71				✓	✓						
					✓	✓		32	19	CL		58.02 ~ 59.34 潜在的な割れ目の除去。割れ目のない柱状コア。劣層は硬い。
59	59.02				✓	✓						
	59.34				✓	✓				CM		
	59.62				✓	✓				CM		
					✓	✓		44	32	CL		
60					✓	✓						